

バンダイこどもアンケートレポート Vol.247

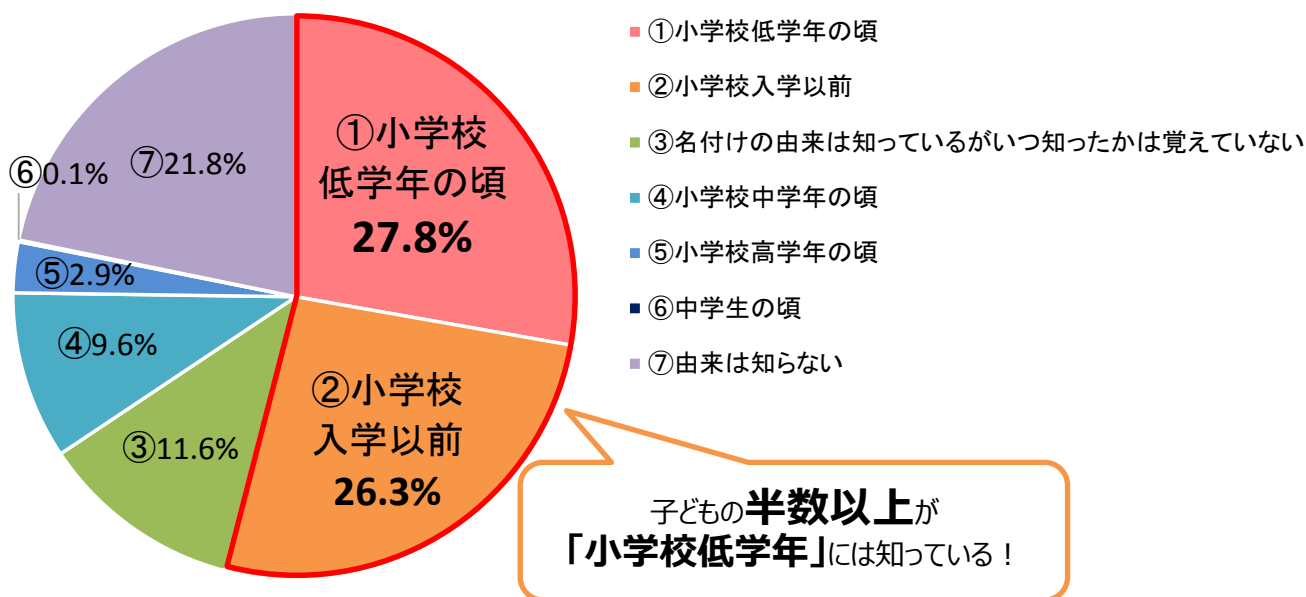
「お子さまの“名前”に関する意識調査」結果

- TOPIC①: 子どもが自分の名前の由来を知っている割合は、**約8割**。
 そのうち半数以上が「小学校低学年」には知っている結果に。
 由来を知るきっかけは、約7割は「親との会話」、約2割は「学校の授業課題」と回答。
- TOPIC②: 子どもが自分の名前で気に入っているところ
1位「響きが良い」、2位「名前の意味や由来」、3位「覚えてもらいやすい」。
- TOPIC③: 親が名付けで最も重視したこと **1位「響き」**、2位「画数」、3位「呼びやすさ」。
 命名者は「子どもの両親」が最も多く、次いで「子どもの父親」、「子どもの母親」という結果に。
- 総括 : バンダイからのコメント

株式会社バンダイ(代表取締役社長:川口勝、本社:東京都台東区)は、「子どもの名前」に対する関心や意識を探るため、小学1年生から中学3年生の子どもを持つ親(子どもと一緒に回答できる方)900人を対象に、「お子さまの“名前”に関する意識調査」を実施しました。調査結果を以下の通り発表します。【実査期間2018年9月22日(土)~9月24日(月)】

- TOPIC①: 子どもが自分の名前の由来を知っている割合は、**約8割**。
 そのうち半数以上が「小学校低学年」には知っている結果に。
 由来を知るきっかけは、約7割は「親との会話」、約2割は「学校の授業課題」と回答。

【子どもが自分の名前の由来を知った時期】(単一回答 n=900)



【子どもが自分の名前の由来を知ったきっかけ】

(単一回答 n=704)

※名前の由来を知っている人ベース

子どもが名前の由来を知ったきっかけ TOP5		
1位	親との会話	71.2%
2位	学校の授業課題	21.3%
3位	祖父母との会話	1.1%

また、「名前の由来を知ったきっかけ」について聞いたところ、「親との会話」(71.2%)が最も多く、次いで「学校の授業課題」(21.3%)となりました。子どもの約5人に1人は、学校の課題を通じて自分の名前の由来について知るといふ実態がうかがえます。

子どもたちに、「自分の名前の由来を知っているか」を聞いたところ、約8割が「知っている」と回答しました。

「名前の由来を知った時期」については、1位「小学校低学年の頃」(27.8%)、2位「小学校入学以前」(26.3%)、3位「名前の由来は知っているが、いつ知ったかは覚えていない」(11.6%)という結果になり、子どもの半数以上が、小学校低学年には自分の名前の由来を知っていることがわかりました。一方で、「自分の名前の由来を知らない」との回答も21.8%となりました。

TOPIC②: 子どもが自分の名前で気に入っているところ

1位「響きが良い」、2位「名前の意味や由来」、3位「覚えてもらいやすい」。

【子どもが自分の名前で気に入っているところ】

(複数回答 n=900)

子どもが自分の名前で気に入っているところ TOP5		
1位	響きが良い	27.3%
2位	名前の意味や由来	22.1%
3位	覚えてもらいやすい	21.1%
4位	名前(本名)で呼んでもらいやすい	19.7%
5位	わからない・特にない	16.0%

子どもに「自分の名前で気に入っているところ」について聞いたところ、1位「響きが良い」(27.3%)、2位「名前の意味や由来」(22.1%)、3位「覚えてもらいやすい」(21.1%)という結果になりました。

また、5位にランクインした「わからない・特にない」(16.0%)については、小学校1~2年生の低学年の回答が最も多くなっており、年齢があがるにつれて、自分の名前への意識が高まっていく傾向が読み取れます。

なお、TOP5 のランキング外で見ると、「一般的な名前である(同じ名前の人が多い)こと」は 3.2%に対し、「珍しい名前である(同じ名前の人が少ない)こと」

は 7.4%と回答が多くなり、一般的な名前よりも、同じ名前の人が少ないことを気に入る傾向にあるようです。

TOPIC③: 親が名付けで最も重視したこと 1位「響き」、2位「画数」、3位「呼びやすさ」。

命名者は「子どもの両親」が最も多く、次いで「子どもの父親」、「子どもの母親」という結果に。

【親が子どもの名付けで最も重視したこと】

(単一回答 n=900)

子どもの名付けで最も重視したこと TOP5		
1位	響き	21.6%
2位	画数	19.2%
3位	呼びやすさ	11.0%
4位	漢字の意味	10.0%
5位	言葉の意味	8.8%

【子どもの名前の命名者について】

(単一回答 n=900)

子どもの名前の命名者について TOP5		
1位	子どもの両親の案を混ぜて	40.7%
2位	子どもの父親	29.0%
3位	子どもの母親	22.3%
4位	子どもの祖父母の案を混ぜて	1.6%
5位	命名の専門家	1.2%

親に「子どもの名付けで最も重視したこと」について聞いたところ、1位「響き」(21.6%)、2位「画数」(19.2%)、3位「呼びやすさ」(11.0%)となりました。また、命名については、「子どもの両親の両案」(40.7%)が最も多く、子どもの父親、母親の両方の思いをくんだ名前がつけられていることがわかりました。

【子どもが自分の名前で気に入っているところ】

・「響き」を重視した親の子どもに聞いた、自分の名前で気に入っているところ（複数回答 n=194）

TOP3		
1位	響きが良いところ	42.8%
2位	名前の意味や由来	20.6%
3位	名前(本名)で呼んでもらいやすいところ	20.1%

・「言葉の意味」を重視した親の子どもに聞いた、自分の名前で気に入っているところ（複数回答 n=79）

TOP3		
1位	名前の意味や由来	38.0%
2位	響きが良いところ	25.3%
3位	覚えてもらいやすいこと	24.1%

「子どもの名付けで最も重視したこと」と、「子どもが自分の名前で気に入っているところ」に関する親と子の回答から、親が「響き」を最も重視して名付けた子どもは、「響きの良いところ」を気に入っていることがわかりました。同様に、親が「言葉の意味」を重視して名付けた子どもは、「名前の意味や由来」を気に入っているとの回答が最も多いという結果が表れました。

このような結果から、親が名前に込めた思いが子どもに伝わっている様子を読み取れました。

【バンダイからのコメント】

今回の調査では、子どもの名前に込めた親の思い、名前をつけられた子どもの思いを探るため、「名前」に関して調査を実施しました。

半数以上の子どもが、小学校低学年には、自分の名前の由来について知っていることがわかりました。

名前の由来を知るきっかけについては、約7割が「親との会話」、約2割が「学校の授業課題」という結果になりましたが、学齢があがるにつれて、「学校の授業課題」を通じて、由来を知る子どもの割合が増えるという結果も表れました。授業の一環として与えられる課題が、由来を知ってもらう貴重な機会となっていることがうかがえました。

また、親が名づけで最も重視したことと子どもが自分の名前で気に入っているところについては、親子で一致している回答が最も多く、親が名前に込めた思いが、子どもにも伝わっていることがわかり、温かい気持ちになりました。

親から子への最初の“プレゼント”とも言われている「名前」が、大切にされ続けることを願っています。

■調査概要

- 【調査目的】子どもの「名前」への関心や意識・実態を探る
- 【調査地域】全国
- 【対象者条件】小学1年～中学生3年生の子どもを持つ親(25歳～59歳)
※子どもと一緒に回答できる方
- 【調査手法】インターネット調査(協力:株式会社クロス・マーケティング)
- 【実査期間】2018年9月22日(土)～9月24日(月)
- 【サンプル数】900人

【構成】		小学 1年生	小学 2年生	小学 3年生	小学 4年生	小学 5年生	小学 6年生	中学 1年生	中学 2年生	中学 3年生
男子	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人
女子	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人	50人

こどもアンケート公式サイト:<http://www.bandai.co.jp/kodomo/>

バンダイ公式サイト:<http://www.bandai.co.jp/>

**次回こどもアンケート
11月下旬「今年のクリスマスに関する意識調査」配信予定**